

# JUから 全日本大学駅伝に3年ぶり出場へ 城西大学男子駅伝部



▲雨の中、力走する金子(右)と中島

大学三天駅伝の一つである全日本大学駅伝対校選手権大会(11月5日)の予選会が6月18日、さいたま市の駒場運動公園陸上競技場で行われた。男子駅伝部は総合9位の3時間59分06秒で3年ぶりに6度目の本戦出場を決めた。各校8人が2人ずつ4組に分かれて1周を走り、合計タイムで競った。今回出走した8人は集団から大きく遅れることなく自分のレースに徹したことが、功を奏した。

最終組では関東インカレの個人種目に入賞した中島公平と金子元気の3年生コンビがそれぞれこの好記録をマーク。予選会通過の決定打となった。落選した10位の日本体育大学とはわずか1秒差。1位の創価大学とも13秒差という僅差。レース後、チームは笑顔が広がった。

報告会で主持の中島優也監督(4)は「チーム全員で勝ち取った結果」と話したが、ギリギリの通過のままで本戦では戦えない」と引き締めた。柳部静二監督は「ギリギリだが価値のある。それぞれがやるべきことを考えやっていた。チームは強くなる。今後を見据えて。チームは夏合宿に向け準備を進める。秋以降のレースに期待の持てる結果となった。」

## 「チーム全員で勝ち取った結果」(主将・中島)



と話したが、ギリギリの通過のままで本戦では戦えない」と引き締めた。柳部静二監督は「ギリギリだが価値のある。それぞれがやるべきことを考えやっていた。チームは強くなる。今後を見据えて。チームは夏合宿に向け準備を進める。秋以降のレースに期待の持てる結果となった。」

城西大学 高島慶美

## 【日本・ミャンマー交流空手道大会】実力トップクラスのミャンマー4選手が参加

3年後に迫った東京五輪に向けた日本の国際交流を進める活動として、東金市の市民団体がミャンマーから招いた空手選手が、5月20日に城西国際大学で開かれた「日本・ミャンマー交流空手道大会」(千葉県空手道連盟主催)に写真1に参加した。

ミャンマー選手は4人で、全国大会優勝などの実績を持つトップクラスの選手が参加。4人は、周辺の道場から集まった小中高約80人にまじり、トーナメント形式で対戦した。

素早い動作で技を繰り出すミャンマー選手と熱戦を展開した。ミャンマー選手は、東金市に滞在し、市役所を訪れ、志賀直温市長に挨拶した。



## 紀尾井町キャンパス 今秋 三大学合同の大学祭開催

本学・城西大学・城西短期大学から60人の実行委員の大学祭の開催準備を進めてきた。実行委員は、三大学合わせて60人(6月末現在)。

今秋、東京・紀尾井町キャンパスでも大学祭が開催される。城西国際大学は、毎年、東金キャンパスで「FESTIVAL」、安房キャンパスで「FESTIVAL」、姉妹校の城西大学、城西短期大学では、坂戸キャンパスで「高麗祭」が開かれ、さまざまな催し、展示などが行われている。

2000人以上の学生が参加する紀尾井町キャンパスは、これまで大学祭はなかった。さみしい思いをする学生が多く、大開催を望む声が多く、強くなった。今回、6月に「大学祭実行委員会」が発足し、城西国際大学、城西短期大学、城西大学の三大学合同の初め



本学の実行委員代表を務める阿部駿史さん

紀尾井町キャンパス 10月1日 大学祭開催決定。

初めての大学祭を開催し、楽しい準備はできています。

三大学合同大学祭のポスター

### 「浜マラソン」をサポート 本学教授とゼミ生5人

九十九里浜を駆け抜ける「第8回浜マラソンin山武・九十九里」が6月4日、山武市の本須賀海水浴場を舞台に行われ、男女約420人が力走した。

約10kmのコースで、30分、20分、10分、駅伝部門の4部門で、レース中に必要な水や食料はリュックに入れるなどして自ら背負うのがルール。砂浜コース、房総半島の美しい海や浜を楽しみながら走る。

城西国際大学では、大会を盛り上げるためボランティアの学生らが参加。今回は、経営情報学部の大塚正美教授とそのゼミ生5人が駆け付けた。ボランティアの学生は、会場の設定やランナーの誘導などを行った。

橋本博英展 光と風を感じて

2017.6/27(水) - 7/22(土)

城西国際大学本学美術館

### 「健康の話」—— 熱中症

学生課・医務係 土肥和子

高温や多湿の環境下で、脱水と熱によって起こるすべての障害が「熱中症」

梅雨時の高温多湿の環境や初夏の暑さに慣れていない時期は熱中症が多く発生します。戸外だけでなく、室内でも熱中症を発生します。

【主な症状】

- めまい、顔のほてり、筋肉痛、吐き気や倦怠感、高体温、発汗異常(拭いても拭いても出る、まったく汗が出ない)
- 重症になると意識障害

【予防】

- 塩分、水分補給
  - こまめな水分補給
  - 汗をたくさんかいたら「経口補水液」を飲む
- 環境を整える
  - 扇風機、エアコンによる温度調整
  - こまめな換気、カーテンなどで室温を上がりにくくする
- 外出時の注意
  - 帽子、日傘の使用
  - 日陰に入る、こまめな休憩
  - 通気性のよい吸取、速乾性の衣服
  - 暑い日の昼間の外出を避ける

【応急処置】

経口補水液でミネラルを補給し、涼しいところで、頸部、脇、足の付け根など太い血管のある場所を冷やす。

反応が緩慢なら、躊躇せず救急車を呼ぶ!

### 学内のAED設置場所知っていますか?

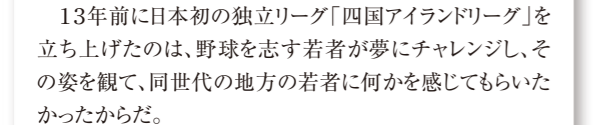
東金キャンパス	本部棟玄関前	L棟1階	体育会1階
	スポーツ文化センター1階	水田記念球場	J棟2階
	サッカー場	東金グローバルヴィレッジ	
紀尾井町キャンパス	1号棟1階受付横	1号棟1階入り口	3号棟1階正面階段横
	4号棟1階入り口横	5号棟1階入り口横	
安房キャンパス	1階事務室前	学生食堂	安房グローバルヴィレッジ

(編集) 学校法人城西大学 広報センター (発行) 城西国際大学 総務課



# 「栄冠」は 射程に入っている

「スポーツにエールを」



石毛 宏典 特任教授

13年前に日本初の独立リーグ「四国アイランドリーグ」を立ち上げたのは、野球を志す若者が夢にチャレンジし、その姿を見て、同世代の地方の若者に何かを感じてもらいたかったからだ。

子供達には、遠くのプロ野球とは違った、もう一つのプロ野球を真近で見ることによって、野球を始め、野球のスキルアップにつなげて欲しい。また、地方にマイナーリーグ的なプロリーグを作ることによって、人・物・金の流れをつくり、経済効果を生みたいと思った。

プロスポーツ事業は、スポンサー頼みの感強い。地方のマイナースポーツ事業は常に経営に不安を抱えている。そのため、選手たちは地域との連携を大切にし、年に100回以上の野球教室・祭・イベント・ゴミ拾いなどの地域貢献活動に参加することによって、「俺が街のチーム」として受け入れ、いろいろな形で地域からの支援を受けている。その結果、毎年、数名が日本野球機構(NPB)に輩出できるリーグになってきている。

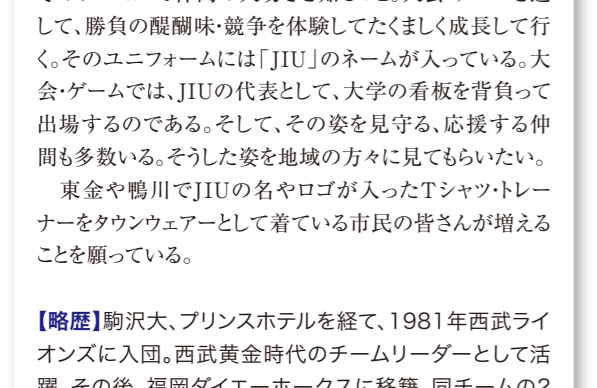
さて、大学スポーツ、今まではスポーツは教育の一環、とされてきたが、2016年5月に、スポーツ庁が主催するスポーツ未来開拓会議で、利益を稼げる成長分野としての議論が進められ、大学スポーツの事業化も考えられてきている。今後は、アメリカの「NCAA(全米大学体育協会)」を参考にもって議論が進むことと思われる。大学の資産である、グラウンドや体育館が収益を生み、それを地域に還元してゆく。時には指導を行い、ともに練習をし、地域スポーツのレベルを上げることによって、地域から応援される。そのパイラルを作ることによって、スポーツによって大学が地域を振興することになる。

教室で将来を見据えて学ぶ。部活動を通じて、心身を鍛え、健康になること、スキルアップを目指して切磋琢磨し、そのプロセスで仲間の大切さを知ること。大会・ゲームを通して、勝負の醍醐味・競争を体験してたくましく成長して行く。そのユニフォームには「JU」のネームが入っている。大会・ゲームでは、JUの代表として、大学の看板を背負って出場するのである。そして、その姿を見守る、応援する仲間も多数いる。そうした姿を地域の方々に見てもらいたい。

東金や鴨川でJUの名やロゴが入ったTシャツ・トレーナーをタウンウェアとして着ている市民の皆さんが増えることを願っている。

城西国際大学硬式野球部は、9勝3敗の勝ち点4で2位に終わり、残念ながら3年ぶりの全日本大学選手権出場はならなかった。最終節では若手を積極起用し快勝。秋のリーグ戦でのリベンジ、関東地区大学野球選手権出場に向けて燃えている。

春季リーグで優勝した国際武道大は、6月に行われた全日本大学選手権で決勝まで進み立教大と対戦した。その国際武道大を最後まで苦しめたのが城西国際大学。「栄冠」は射程に入っている。



城西国際大学硬式野球部 ◆ 1992年(平4)の開学と同時に創部。95年秋季リーグで2部から1部へ昇格。07年に佐藤清監督が就任。11年秋季リーグで1部初優勝など秋は3回、春は15年に優勝。大学選手権で1勝を挙げた。プロ入りしたOBに黒沢翔太(ロッテ)、野川拓斗(横浜)、宇佐良真吾(巨人)がいる。

記者募集

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験が長い職員が取材、書き方を基本から指導します。写真、イラスト、漫画なども協力してくれる学生も募集しています。

連絡はこちらまで ☎03-6238-1241 学校法人城西国際大学本部 広報センター

夏——JUアスリートの体に汗がほとばしる。各運動部は、新しい仲間の1年生を迎え入れて練習に励んできた。硬式野球部は、千葉県大学野球春季リーグ戦で2位。サッカー部は、千葉県大学サッカー選手権大会で優勝した。さあ、次は、「大学日本一へ」。照準は定まった。選手たちに激励のエールを送りたい。

## 反攻の秋 硬式野球部 神宮に向け手応え

「新しい力がどんどん出てきている」

前だけを見ていた。5月21日にゼットエーボールパークで行われた千葉県大会。城西国際大は6回、7回コールドの大勝で2勝目を挙げ、単独2位で最終節を締めくくった。前節では、国際武道大にタイブレークの末惜敗し、優勝を逃したものの、佐藤清監督は落胆はない。反攻の秋に向け、手応えを口にした。

「1回勝ち方をしたと思います。今シーズンは経験が少ない中、よく頑張った。胸が足りなかったのはありますが、これから新しい力がどんどん出てきて、楽しみにしています」

この日の先発・中島と2番手・徳永は1年生。5回、1回を無失点で好投し、最後は抑える曹野が締めて完封リレーを完成させた。打線は初回に先頭安打から3番・湯浅の中越え適時三塁打など5安打で4得点。5回はエンドランを奪えば初先発、5人が今季定位置を獲得したばかり。力を蓄え春となった。

確かな前進を続けてきた。天理高早大、日本生命で主力選手として活躍し、早大では監督を務めた佐藤氏が監督に就任したが07年、1人で「人間形成から始めた」と話すチーム作りは11年秋から一部リーグ初優勝の実を結んだ。秋3回の優勝後、9年目の15年に春も制覇し初の大学選手権へ。記念すべき神宮初勝利を挙げ「自信になった」と言う。現在部員は166人。全国経験がさらなるチーム内競争、意識強化につながっている。

チームコンセプトは「守り勝つ」野球だ。バッテリーを中心にしたディフェンス力。その上に攻撃がある。と指揮官は語る。その上で攻撃がある。と指揮官は語る。その上で攻撃がある。と指揮官は語る。

切にしている。秋に向け「ここ一番で、もう一本打てるようになりたい」と湯浅。チームの精神的柱である捕手と主将の中西は「今シーズンは今後の強みになる経験ができた。秋はリーグ、関東大会を勝ち抜いて、神宮にまた行きたい」とこの春を総括した。曹野、湯浅、中西ら、全国舞臺を目指す目標は高い。

「秋はリーグで優勝するのはもちろんですが、横浜(関東大会)を越えたいですね」と佐藤監督も言い切った。過去3度の秋優勝も、関東地区大学選手権大会では準決勝で2度創価大に敗れている。充実の秋、2度目の神宮にたどり着くまで、歩みを止めるものはない。

協力スポンサー 新聞社

